



野田 凌平

和歌山病院には結核病棟があるということで、正直なところ結核に恐ろしいイメージを持っていた私は、そんなところに立ち入っていいのかという不安がありました。しかし、駿田副院長より結核について講義を受け、感染症としての結核を理解したうえで結核病棟を案内して頂くと、室内に陰圧をかけることや N95 マスクを医療者が付けることといった、必要以上に仰々しくない対策で安全性が確保できる事を体感する事ができました。

病気に対して正しい知識を持っていれば、患者に必要な以上に制限や負担をかけずにすむ事ができるということ、そのためにも医師として精確な知識と経験を積む責務があることを改めて実感しました。

院長の南方先生からは胸部 X 線の読影方法を、ただ暗記するのではなく、論理的にどう考えれば読み解けるかということを学生にヒントを与えつつ考えさせながら教えていただきました。少人数相手だからこそできる講義をしていただき、大変刺激的でした。筋道立てた思考をするためにはどうすればいいかを考える機会をいただいたので、胸部 X 線の読影に留まらず、様々な物事の考え方に活かさせていけたらと思います。

院長の南方先生、副院長の駿田先生を始め、多くの先生方には多くのことを御指導いただき、充実した実習となりました。また、機会があれば和歌山病院で実習させて頂きたいです。お忙しい中、2日間実習させて頂き本当にありがとうございました。